

みずるへ

しんまる情報



新丸山ダム周辺の森林に生息するニホンリス。えさはおもに、木の実や芽・皮などです。マツ・スギなどの針葉樹の木の上に、枝やコケ・木の皮を集めて巣をつくり、4～6月には、1～6匹の子を産みます。



新丸山ダムのキャラクター しんまるくん

発行

建設省中部地方建設局
新丸山ダム工事事務所

13

INFORMATION

建設省新丸山ダム工事事務所は地域の皆様や関連する方々との情報ネットワークとして、情報誌「みずるへ」を発行しております。今号では最近の事業の一端を、紹介いたします。今後とも内容をますます充実させていきたいと思っております。ご意見・ご感想がございましたら、ぜひお寄せ下さい。



雪の丸山ダム
真白な雪が降り積もった丸山ダム。草花、新緑、紅葉、そして雪化粧と季節の移り変わりによって、その姿を演出しています。冷たい雪の下からも暖かく地域を見守り、春になれば、雪解け水を下流へ運ぶことでしよう。

新丸山ダム概要

新丸山ダム建設事業は、木曾川本川が濃尾平野に流れ出る手前の峡谷に設置されている丸山ダムを大規模に嵩上げして、洪水調節能力を大きく向上させようというものです。

我が国あるいは世界で大きな役割をになっている中部圏を支え、更に発展させてゆくための基盤施設として、木曾川の新たなカナメとして生まれかわる新丸山ダムは、極めて大きな役割を果たすこととなります。



▲植栽などが行われたさざなみ公園

えられて行われたこの事業は、恵那市大井町奥戸で平成2年度より開始され、平成6年7月に完成しました。さざなみ公園周辺の整備をはじめ、歩きやすい歩道や公衆トイレなどの設置。さらには、恵那峡をより身近に感じてもらうための、アウトドア施設の整備などを実施しました。また、グリーンロードの整備により、国道19号や蛭川村方面から恵那峡への交通がスムーズになりました。みなさんも、より便利で快適になった「心安らぐ憩いの広場」に足をはこんでみませんか。

取材協力/恵那市商工観光課



▲歩きやすく整備された歩道

恵那峡県立自然公園に指定され、四季折々の美しい自然景観が魅力の恵那峡では、より便利で快適な安らぎの場となるようにと「恵那峡ルネッサンス整備事業」として整備が進められてきました。



▲マウンテンバイク場などを備えたアウトドア施設

▲とても便利になったグリーンロード

恵那峡ルネッサンス

恵那市

ダム湖の静かな湖面を活かした緑豊かな環境には、訪れる人々が快適に過ごせる「安らぎの空間」が整備されています。

いべんととインフォメーション

恵那市に残される伝統芸能を守り、盛り上げていこうと、郷土芸能を一堂に会して上演される伝統芸能大会。平成2年より、市文化振興会の主催で行われています。今回披露されるのは、歌舞伎、祭りばやし、獅子舞、日本舞踊などの保存会13団体のうち9団体、約80人。中には300年もの歴史を持つものもあるそうです。このうち三郷歌舞伎保存会の歌舞伎には、地元の小中学生も出演。「舞台裏に」と、出演する人たちの本番前の意気込みや、たくましい熱気が伝わってきます。みんな、とってもイキイキとしてるんですよ！」とは、文化振興会の千藤さん。また、「この大会をとおして、たくさんの人々に芸能のすばらしさを知ってもらいたい」と、おっしゃっていました。みなさん、取材協力・お問い合わせ/恵那市文化振興会(0573)26・3524



●お問い合わせ 八百津町役場 (0574)43・2111

八百津町

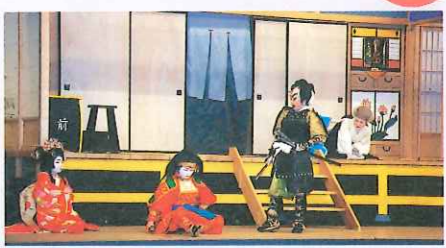
- 2月11日 スキー教室【伊那スキーリゾート】
- 2月12・13日 若人ふれあいスキーツアー【斑尾高原スキー場】
- 3月5日 八百津町民駅伝大会【八百津町内】
- 3月3・4・5日 八百津町美術展【ファミリーセンター】
- お問い合わせ 恵那市役所 (0573)26・2111



▲笑顔が素敵な千藤直枝さんに芸能のすばらしさを知ってもらいたいとおっしゃっていました。みなさん、取材協力・お問い合わせ/恵那市文化振興会(0573)26・3524



▲大井舞踊保存会による大井舞



▲児童による三郷歌舞伎

建設省中部地方建設局
新丸山ダム工事事務所
〒505-03
岐阜県加茂郡八百津町八百津3351



もしもしテレフォン
新丸山ダムについてどんな事でもお気軽にお問い合わせ下さい。
0574-43-2780(代)

“ダム建設は、どこまですすんでいるの？”
 “これからどんな工事が必要なの？”
 新丸山ダムのいろいろな最新情報を紹介します。

順調に進む道路建設 新丸山ダム建設事業、着々と進行中

地域の暮らしを守り、豊かな生活を支える、たのもし新丸山ダム。現在は用地の確保や道路建設が行われています。地元の方々との連絡調整の実施、環境対策、最新技術を取り入れた山間地での道路建設など、本号では、最近の事業の一端をご紹介します。一日も早く完成させるために、今後とも地域のみなさんのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。



進む山間地での道路建設

山間地での道路建設は、工事のための作業スペースがとりにくいことや、山間地における安全対策を十分図ることなど、平らな土地とは異なった条件での工事となります。新丸山ダムでは、新技術を取り入れた施工方法によって、周辺的环境にも配慮しながら道路建設を順調に進めています。

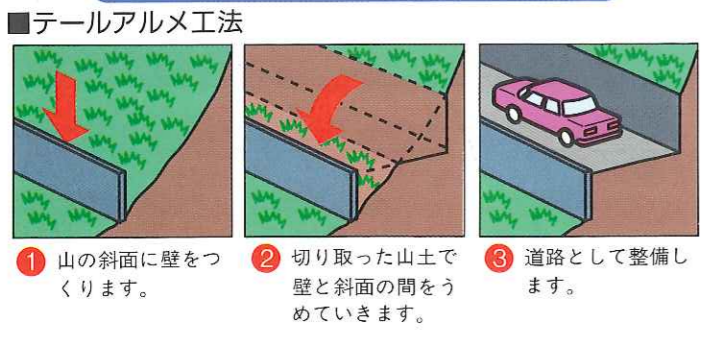
新技術の導入 **大峯支線工事【八百津町諸田】**
 険しい地形部は山を切り取り、コンクリート構造物を造りながら施工しています。これまでのコンクリート擁壁に比べ、工事の進めやすさや経済性に優れています。また、現場で切り取った土砂を利用するなど環境にも配慮しています。



周辺地域への配慮 **大峯線法面工事【八百津町口祖沢】**
 山間地の道路建設では、山側斜面(法面)の防災工事も欠かせない大切なものです。この工事では、近くに人道の丘公園があることから、周辺景観にも配慮した緑を活かした緑化工法を採用。ツツジが植えられる緑化ブロックは、擁壁の圧迫感を感じさせない暖かい印象を与えます。なお、工事期間中でも、土・日曜は、現場内を通行できるようにしています。



事業に導入された新技術の一つを紹介します



進む用地取得

■資材運搬線の用地取得が始まる

資材運搬線とは、ダム工事の際にセメントなど建設資材を運搬するための工事用道路のことです。新丸山ダム建設用の資材運搬線は2車線になる予定。木曾川左岸側の道路延長は9.3kmで、道路を拡幅する部分と新たに新設する区間があります。昨年8月、御嵩町綱木地区での説明会を経て、町並びに地域の方々のご協力を得て道路建設に必要な用地の取得を開始しました。



■貯水池沿いで用地境界の立会

地権者の方々のご協力を得て一同に会し、土地の境界を確認しあう作業。この後、土地の測量や物件の調査を行い、補償のための大切な資料を作成することになります。現在、湖岸林道では多くの地権者の方々のご理解とご協力を得て、境界立会・用地測量・立木調査等を順次、進めていきます。



▲境界立会のための現地説明風景 (H5.11)

環境調査 綿密で詳細な環境調査の実施

新丸山ダムは、現在の丸山ダムにより創り出された良好な自然環境の中につくられます。ダム建設に当たっては、あらかじめ自然環境について適切に調査することが大切です。どんな種類の動物や植物がどのように生息しているかを文献調査や現地調査等をもとに調べます。これら詳細に調査された基礎資料は、新丸山ダム建設にあたって環境と共生した方策を推進するために活かされます。新丸山ダムでは、自然にやさしいダム事業を推進していきます。



▲調査中に姿を見せてくれた、クズの実を食べるニホンザル
 写真提供：岐阜県立加茂高等学校教諭 梶浦敬一氏

昆虫類・底生動物の調査例



第2回

新丸山ダム ふれあい広場

新丸山ダムを地域の方々に、より身近に感じてもらうと、昨年11月12・13日、新丸山ダム工事事務所駐車場・1Fロビーを会場として『第2回新丸山ダムふれあい広場』を開催。これは、八百津町産業文化祭の協賛と『くらしと土木の週間・土木の日』記念イベントとして催されました。

2日間で約2000名が来場。13日には産業文化祭への出演のために来町していた漫才師の“今いくよ・くるよ”さんの突然の訪問に、スタッフをはじめ来場者もビックリ/事務所長からダム建設の説明を受けたお二人は、スケールの大きさに驚きの様子でした。

会場では、そろいのトレーナーに身をつつんだ職員らが大勢の方々の対応に大忙し。ダムの模型やパネルの展示、建設機械を使った空中遊泳や子供向けの大型遊具などが人気を呼びました。また、今回は新丸山ダムのキャラクター『しんまるくん』のぬいぐるみが初登場。訪れた子供たちに、盛んに笑顔をおくっていました。

▼今いくよ・くるよさんと事務所長から説明を受ける今いくよ・くるよさん
一緒にしんまるくん



▼大よろこびの子供たち

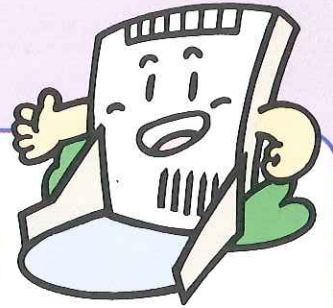


▲にぎわう会場

きあまた、
てに
ネー!



しんまる Q&A



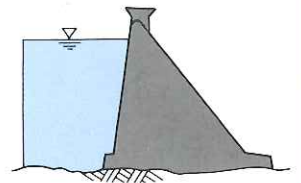
Q1 新丸山ダムは『重力式ダム』っていう種類だと聞いたけど、他にダムには、どんな種類があるの?

A ダムは、使う材料によって『コンクリートダム』と『フィルダム』に分けられるよ。コンクリートダムは、材料にコンクリートを使い、構造の違いによって『重力式ダム』『中空重力式ダム』『バットレスダム』『アーチダム』という4つの型式があるんだ。また、フィルダムには『アースダム』と『ロックフィルダム』の2つの型式があるよ。

コンクリートダム

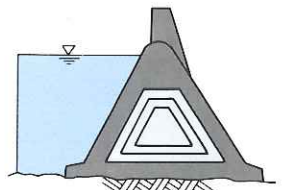
●重力式ダム

もっとも多くつくられている型式で、コンクリートのダムの重さで水圧を支えるダム。横から見た断面は、直角三角形のような形をしています。



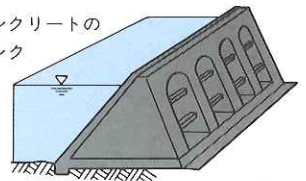
●中空重力式ダム

重力式ダムの変形で、内部が空洞になっています。重力式ダムよりコンクリートの量は少なくてすみませんが、構造が複雑で工事に手間がかかるため、あまりつくられていません。



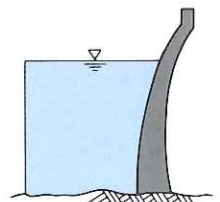
●バットレスダム

水をせき止めるうすいコンクリートの版をバットレスというコンクリートの壁で支えるダム。構造が複雑なため、あまりつくられていません。



●アーチダム

上から見た形が半円形などのアーチ型。ダムはうすくつくれるため、コンクリートの量は少なくてすみ。この型式は、かなりの水圧を両岸の岩盤に伝えられますが、アーチを支える岩盤は、丈夫でなければなりません。

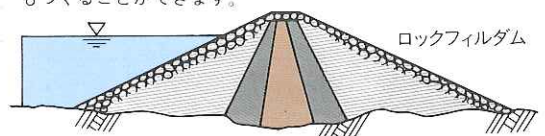


フィルダム

●アースダム(土を盛り立ててつくる)

●ロックフィルダム(岩石を盛り立ててつくる)

フィルダムは土や岩石をゆるやかな勾配で盛り立ててつくるため、ダムの土台の面積が広くなります。水圧やダムの重さを分散することができるので、地質の条件が良くない場所でもつくるができます。





ダム湖にたたずむ五月橋を訪ねて

人々の生活を見守り、 支えてきた 心と心をつなぐ〃かけはし〃



▲現在の五月橋

豊かな自然の中、満々と水を湛える丸山ダム湖に架かる五月橋。丸山ダムが完成するまでは、歩く度に上下に恐ろしくゆれる吊橋でしたが、それでも八百津町と瑞浪市を結ぶ地元の方々の生活にはなくてはならない橋でした。丸山ダムの完成とともに生まれ変わってすでに40年。そして新丸山ダム建設に伴って架け替えられます。

五月橋と人々とのふれあい、また、当時



▲丸山ダム湖を走る遊覧船

人々の目に映った丸山ダムを探しに、古くから五月橋の近くにお住まいの柘植さんと、現在の五月橋完成のときに渡初めをされた工藤さんをお訪ねしました。

八百津町潮見にお住まいの柘植さんご一家は、以前この地で民宿を営まれていました。八百津と瑞浪とを吊橋を使って行き来していた商人が、多いときは50人も泊まっていたほど大きな宿だったそうです。丸山ダムが出来たときは、とにかくその大きさに目を見張ったといいます。「当時は遊覧船が一日に3回走っていて休



▲柘植さん夫婦

日には臨時便が出るほど。大勢の観光客でにぎわっていたね」と、柘植さん。また、八百津までバスより早く行けると、生活に利用していた方もいたそうです。丸山ダムのシンボルともいわれたこの遊覧船は昭和29年から、同45年まで運行されていました。

現在の五月橋は、昭和29年5月に完成。地域の方々の期待を集めた開通式には、地元から選ばれた夫婦三代による渡初めが行われました。「当日は、朝早くから身支度で大いそがしかったよ、渡るときは緊張するのとテレくさいのとであつという間に終わってしまったね」とは、三代のうち一番若い代で渡られた、瑞浪市日吉町にお住まいの工藤さん当時26歳。「あのときは、おなかに赤ん坊がいたから留め袖を着せてもらうのも大変だった。ほら、この前から3番目に座っているのが私たち」と、写真を

見せてくれたのは当時20歳だった奥さん。

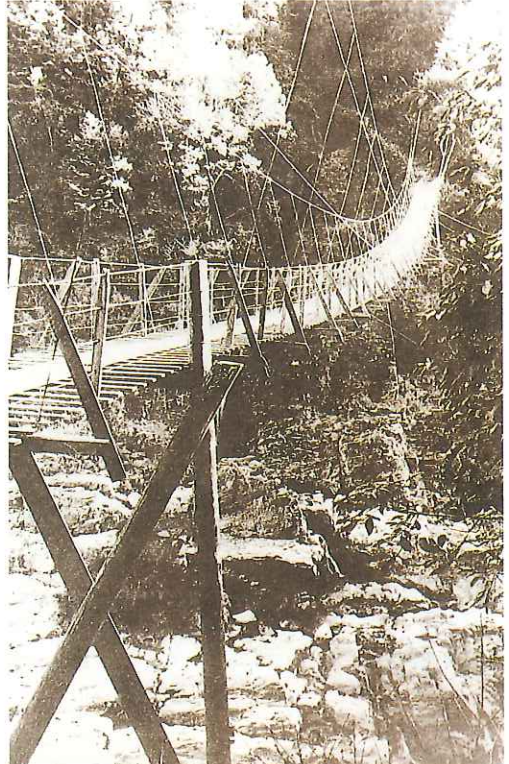
深夜の雄大な自然の中にたたずむ五月橋。昔から人々の暮らしを支え見守ってきたこの橋は、より一層人々の生活を豊かに彩るため、再び新丸山ダムの建設とともに姿を変えていきます。



▲工藤さん夫婦



▲開通式・夫婦三代渡初め



▲丸山ダム建設以前の五月橋